

王であるキリスト

皆さんもご存知のように今日は典礼サイクルによる年間最後の主日で、「王であるキリスト」の祭日です。この日、教会は、終末主日にして世の終わりについて黙想してきました。

今日、この祭日を祝うのは、世の終わりが滅びの時ではなく、神の国の完成の時であるからです。つまり「王であるキリスト」の祭日は、キリストが宇宙の支配者であること、この王であるキリストが再び来てくださる喜びの時であることを祝う日なのです。

「王であるキリスト」といわれても、私たちは王のいない時代に生まれ生きていますから、王政とその支配する世界がどんなものかについてはよく知りません。歴史の中で学んだだけです。ですから王が支配する時代に生きたことのない私たちに「王であるキリスト」は分かりにくいイメージなのかもしれません。キリスト教の教えでは王はもともと「メシア」のことと説明されます。つまり、神に選ばれて油を注がれ、王とされた者という意味です。新約聖書では、「メシア」と言う言葉を忠実に訳して「キリスト」と呼んでいます。私たちに親しい「キリスト」という名は、イエスこそ真の意味で王であるということなのです。

さて、今日の福音書でイエスは「わたしの国はこの世に属していない。」(ヨハ18・36)と言われました。イエスが言う「この世」とは私たちにとって何を意味しているのでしょうか？何が支配する世界なのでしょうか？それは、軍事力・武力が支配する世かいではないでしょうか。あるいは政治権力、財力が支配する世界、名誉・地位、知識と体力などが支配する世界のことではないでしょうか？私たちはこの世界を当然のこととして生きています。しかしイエスは「私の国はこの世に属していない」と言うのです。

本日のミサの叙唱のなかで司祭はとなえます。王であるキリストの王国とは私たちが考える「この世界」とは異なり「真理と生命の国、聖性と恩恵の国、正義と愛と平和の国」なのです。使徒パウロも言っています。「神の国は、聖霊によって与えられる義と平和と喜びなのです。」(ロ14・17)

ここで注目したいことはイエスは十字架による屈辱的な死を通して復活の主へとあげられたことです。つまりイエスが王であるというのは十字架と復活の神秘によるのです。十字架上の死によってもたらされた復活によって、イエスは宇宙万物を支配する王となりました。

イエスは十字架の死を通して王となりました。このイエスの生き方に倣うようわたしたちも召されています。わたしたちも日々小さな死をささげることにより主の復活にあずかることができると思います。死から復活の命にあずかるより深く知ることができるよう神秘を祈りたいと思います。ひとつのよい祈りをみつけましたのでそれを紹介して説教の結びとします。マザー・テレサの祈りです。聞きましょう！

イエスよ、わたしを解放してください。

評価されたいという思いから、わたしを解放してください。

イエスよ、

重んじられたいという思いから、ほめられたいという思いから、

好まれたいという思いから、相談されたいという思いから、

認められたいという思いから、わたしを解放してください。アーメン。

最後に私自身が皆さんと共に祈りたい次のいのりがあります。**王であるキリスト**の模範が世界中で実現しますように、特に私の国ミャンマーに届きますように！アーメン

